

《報告》

第2回実務者のための栄養管理プロセス研修会（NST 合宿）報告

塚原 丘美¹⁾、畠山 桂吾²⁾、立花 詠子¹⁾

1. 研修会の目的

この研修会（NST 合宿）は、昨年度に初めての試みとして、研修会で得た知識がその後の実務に繋がる実践的なプログラムで、かつ実務者のネットワーク構築を目的にした合宿形式で開催した。その結果、是非次年度も開催してほしいとの要望が多く、さらに名古屋学芸大学既卒者でない希望者も存在したので、今年度も同じ目的で開催した。

病院に勤務する管理栄養士は、深い知識と広い視野をもって、それぞれの患者に合った栄養管理計画を作らねばならない。そこで、どのような連携とアウトカムを期待してPDCAを回し、退院後の療養施設や在宅における管理へどのように繋げていくのかを、多方面から深く検討するため、2日間の合宿形式でグループ症例検討会を行った。この経験を通して実務者としてのスキルアップを図るとともに、様々な立場の管理栄養士と議論する中で、同職種間のネットワーク構築に繋げることも目的とした。

2. 日時および場所

日時：2020年2月1日（土）～2日（日）

会場：サンプラザ・シーズンズ 楠の間
（名古屋市名東区藤里町1601番地）

3. 参加者

本研修会は名古屋学芸大学および名古屋学芸大学大学院の卒業生を中心として、医療機関で数年間の実務を行っている管理栄養士を募集したところ、21名（当大学既卒者18名、他大学既

卒者3名）（女性13名、男性8名）の応募があった。経験年数は2年以下が9名、3～5年が7名、6～9年が2名、10年以上が3名であり、昨年よりも経験年数が浅い参加者が多かった。他の研修会への参加経験は「あり」が8名、「なし」が11名であった。経験年数が近くなるように4グループに分けた。

4. 研修会プログラム

昨年のプログラムとほぼ同様の以下のスケジュールで行った。

〈1日目〉

13:00～13:15 開会あいさつ
13:15～15:45 セッションⅠ
高齢者疾患の症例検討
16:00～19:00 セッションⅡ
嚥下障害と連携
19:00～20:00 夕食・交流会
21:00～ 情報交換会

〈2日目〉

8:30～11:30 セッションⅢ
高齢者の経腸栄養・静脈栄養
11:30～12:30 反省会・アンケート記入
12:30～12:45 閉会あいさつ

5. 研修会内容

1) 13:15～15:45 セッションⅠ
高齢者の栄養管理

講師：下方浩史 教授

（名古屋学芸大学健康・栄養研究所 所長）

1) 名古屋学芸大学管理栄養学部

2) 名古屋第二赤十字病院栄養課



写真1 セッションI

内容：簡単な生活習慣病の症例アセスメントでウォーミングアップをした後、ある症例のグループワークを行った。課題症例として気管支喘息の重積発作と急性腎不全を併発した78歳女性のデータが示され、その栄養管理について臨床的アセスメントを中心に各グループで討議し、順に発表を行った後、講師より詳しい解説があった。また補足として、糖尿病治療ガイドライン2019の説明と、栄養管理に関するトピックスについての講義を聴講した。(写真1)

2) 16:00~19:00 セッションII

嚥下障害と連携

講師：福元聡史氏（トヨタ記念病院栄養科）

内容：嚥下のメカニズム、嚥下障害および嚥下調整食について、基礎的な部分から詳しい説明を聞いた後、地域連携を含めた嚥下障害患者の症例検討を行った。セッション1と同様にグループで討議してそれぞれが発表した後、講師による解説があった。また、講師がこれまでに行っ

きた地域連携づくりの取り組みについての講義があり、行政と連携することの必要性などについて学修した。(写真2)

3) 8:30~11:30 セッションIII

高齢者の経腸栄養・静脈栄養

講師：森 茂雄氏

(愛知厚生連稲沢厚生病院栄養科)

内容：急性期の栄養管理について、重症患者の栄養アセスメントから栄養投与方法への展開に関するいくつかの設問について、グループで討議して発表後、講師による解説があった。また、慢性期の栄養管理について、経腸栄養剤投与の在宅管理まで含めたいくつかの設問について、グループで討議して発表後、講師による解説があった。普段、静脈栄養管理にあまり携わっていない参加者がほとんどだったので、電解質の管理などを再認識する講義内容であり、また在宅療養における経腸栄養管理についても、病院に勤務する参加者には貴重な講義を聴講できた。(写真3)



写真2 セッションⅡ



写真3 セッションⅢ

6. 研修会の効果

研修会の最後に、昨年と同様のアンケート調査を行った。昨年の研修会に参加しておらず、今年度の研修会に初めて参加する経験年数の浅い実務者にとって、臨床栄養管理の考え方を深く学び、さらに病院栄養士としてネットワークを広げることができ、当研修会の目的と参加者自身の目的はほぼ達成できていた(表1)。

3つのセッションですべて終了後に理解度は高まっていた。セッションIでは、ガイドラインに従って栄養管理計画をたて、さらに改訂された糖尿病ガイドラインについての講義もあったので、ガイドラインの見方等について再認識

するような意見が多かった。臨床現場で治療に携わる者として、最新の治療ガイドラインに沿って計画をたてるべきであり、さらに科学的根拠に基づいたガイドラインの正しい見方・使い方は必須である。このセッションから、重要な事柄を学修することができた(図1)。セッションIIは嚥下障害の患者に対するアプローチがテーマであった。この度の研修会参加者は、比較的病床数の多い総合病院に勤務する管理栄養士が多く、高齢者施設に勤務する管理栄養士のように嚥下障害患者に直接対応しているケースが少ない。そのこともあり、VE検査やVF検査の結果をどのように判断し、栄養管理計画に反映させていくか、具体的に知ることができて良かったとの意見が多かった。急性期病院であっても、患者が高齢化していくことは避けられず、嚥下障害に対応する知識と技術は必須である。この研修会をきっかけに、この分野の研修に参加してさらに理解を深めることを望む。地域連携に関する話題についてはあまり、意見が記載されていなかった。参加者の勤務年数が少ないため、院外の活動に参加する機会があまりないためと考えられるが、地域の拠点病院の管理栄養士であるからこそ、地域連携のリーダー的存在になって、関連施設の管理栄養士との連携を構築する役割を担う管理栄養士を目指

表1 合宿に対しての感想・意見

<ul style="list-style-type: none"> ・過ごす時間も長く交流が深まった8名 ・集中的に勉強できて良かった(普段難しい) 3名 ・時間を気にしなくて良かった2名 ・良かった2名 ・昨年同様、実臨床の場で困っていること、悩むことなど共有でき、講義の中でヒントをもらいとても勉強になった ・宿泊なしの学芸主催のもっと気軽に参加できるものも、たくさんあると嬉しいです ・相談をすることができました ・なかなかない機会なので楽しかったです ・「合宿」となると少しハードルが上がりますが、皆さんと2日間過ごせるのはとても良かったです ・話すきっかけとなり、コミュニケーションの輪が広がりやすいと思った ・もう少し1-8期生の参加率が上がるとよいなと思いました。 ・人脈の拡大に繋がって良いと思った ・単発日帰りの研修よりもチームの団結力(?)が高まって良いと思いました ・夕飯と飲み会がセットでもよいかと思いました ・懇親会終了-翌日の講義開始時間が短いため朝辛い。3時間続けてではなく、間に5分でも休憩がほしい
--

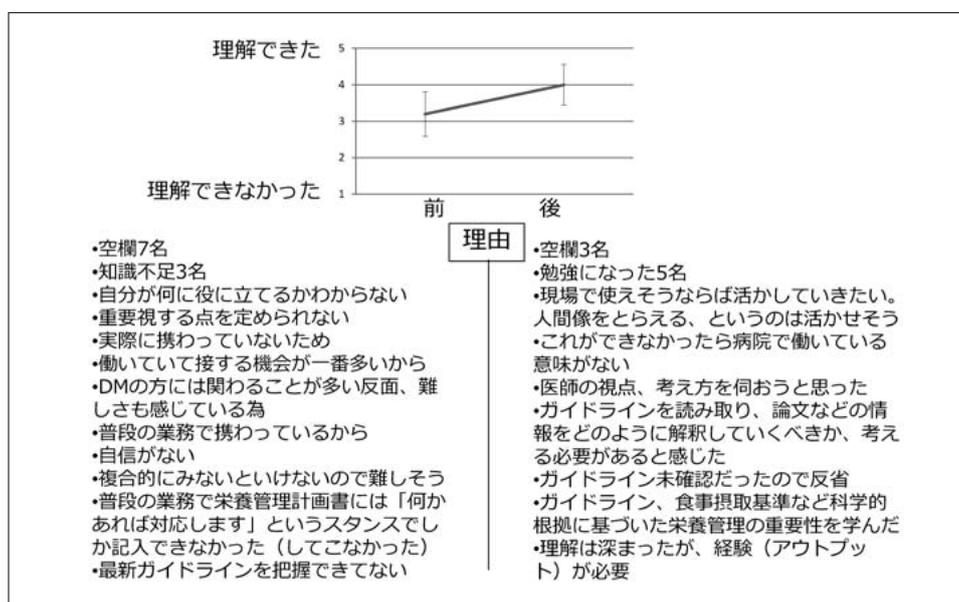


図1 セッションI 研修前後における理解度の変化

してほしい。このテーマに関しても、今後、この研修会参加者が興味を持って深く関わることを望む（図2）。セッションⅢは経管栄養・静脈栄養に関するテーマであり、参加者の多くに苦手意識があった。しかしながら、この栄養管理を行う場合のアセスメント方法や重要な項目についてのグループ討議を重ね、具体的で明確な解説を頂いたおかげで、栄養士としての強みを認識したとの意見が多く、中には積極的に取り組みたいとする意見もあった。特に、若手の参加者は、普段の実務の中でこのような症例を担

当することが少ないために新鮮であったと思われる。令和2年度診療報酬改定では、患者の早期離床、在宅復帰を推進する観点から、特定集中治療室（ICU）において、早期に経腸栄養等の栄養管理を実施した場合について、「早期栄養介入管理加算」が新設された。これを受けて、今後ますます、ICUを担当する管理栄養士が増えると思われる。本研修会の参加者の多くが、近い将来、ICU担当として医師と連携をとって積極的な栄養治療に携わってほしい（図3）。

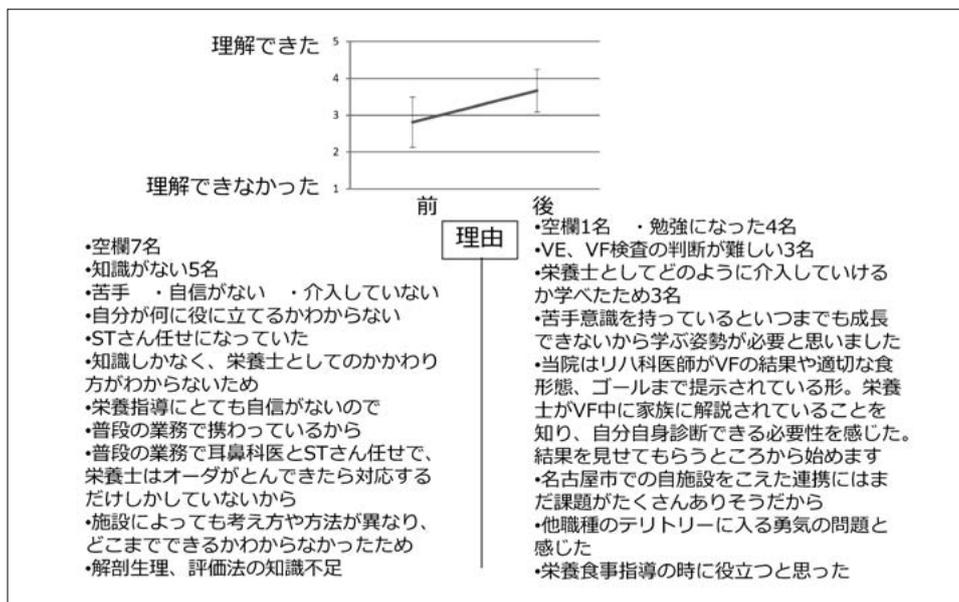


図2 セッションⅡ 研修前後における理解度の変化

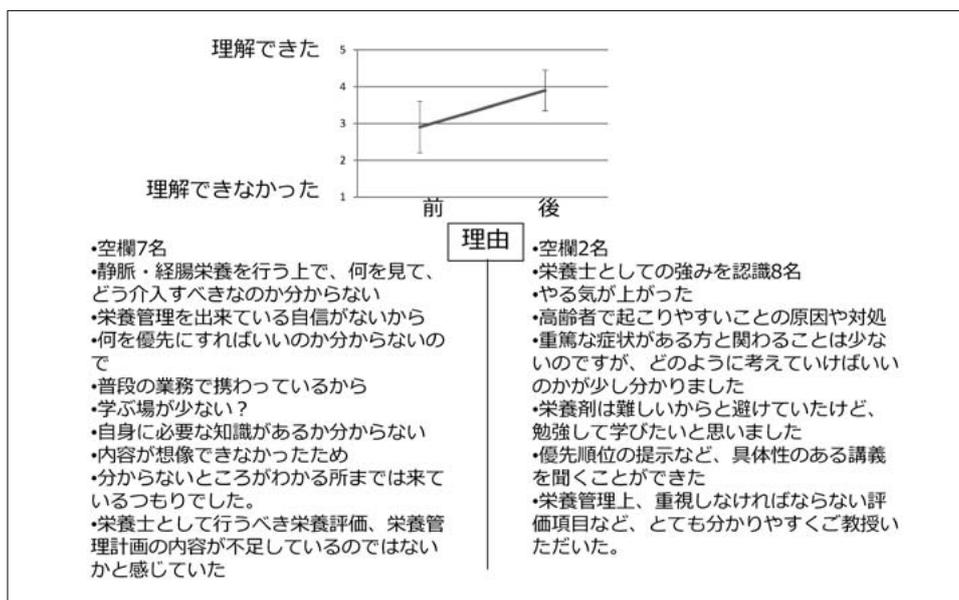


図3 セッションⅢ 研修前後における理解度の変化

7. 研修会の感想および改善点

研修会のアンケートに記載されていた内容を表2および表3に示す。本研修会に対する自由記述では、参加者は概ね満足していた。知識や実践的な考え方等を学修できただけでなく、先輩と後輩の良好な関係が築かれ、また他病院の管理栄養士とのネットワーク構築もできた。さらに、日々の実務に対する心構え等、管理栄養士としての業務を再認識した参加者が多かった。これらの自由記述の内容からみても本研修会は参加者にとって有益なものであったと推測される。しかしながら、研修時間やプログラムに対する要望もあったため、次年度からの研修会に反映させたい。

8. 謝辞

この研修会を開催するにあたり、名古屋学芸大学健康・栄養研究所の研究費助成をいただきました。また、本研修会の講師として下方浩史研究所所長に高齢者のセッションを担当していただき、長時間にわたる講義をしていただいただけでなく、オブザーバーとしてすべてのセッションにも参加していただきました。心より深く御礼申し上げます。

表2 あまり理解できていない人は、時間的
どのくらいの講義や演習で理解できるか

- ・空欄9名 ちょうど良かった3名
- ・講義時間を増やし、症例もいくつかさせて頂けると嬉しい
- ・理解できた方ですが丸2日あればもうすこしじっくりできたのかな
- ・講義中に1回は休憩が入ると、より集中力を切らさず頑張れる
- ・今の1.5倍ぐらいの時間。休憩は頂けると嬉しいですが・・・
- ・理解できなかったとしてもモチベーションが刺激されると思うので、時間は今のままで良い
- ・同じテーマで1日かければ理解できる
- ・もともとの知識レベルに差があると思うのですが、宿題などがあると良いかもしれません
- ・結局のところ経験しないと身につかない部分もあるので、時間については丁度良い
- ・ちょうどよいと思いました。今日の内容は1年以内に学びたい。新しい問題点は続々とてくるが・・・

表3 自由記述

- ・感謝の言葉 8名
- ・勉強になった 5名
- ・交流を深められた 5名
- ・有意義な研修会 4名
- ・知識不足を感じた 4名
- ・復習の必要性 2名
- ・悩みを相談できた 2名
- ・再参加・継続希望 2名
- ・学生のとより、社会人になってからの方が視点が変わり、より現実的に考えることができました。こういう場は本当に貴重なのだと思いました
- ・自分の中でこの1年あまり変化はなかったと思っていましたが、昨年と比べ設問にも少し深く考えることができたように感じました。少しずつ成長できているのかなあと思えました
- ・合宿直前の火・水曜あたりは正直、なんで申し込んだのだろうと少し後悔していましたが、参加して本当に良かったです。管理栄養士の意義について悩んでいましたが、知識不足を痛感しました
- ・意識の高い先生方や先輩・同期・後輩に刺激を受けました
- ・グループワーク中心となるため仕方ないかもしれないが、座り方の配置は再検討してもらえたらと思いました。後ろの方でスライドが見にくく、話をききながら(スライドを見ながら)メモをするのが大変でした
- ・“合宿”ではなく、“研修会”や“研究会”のような名前の方が良いと思います
- ・初心者向けの勉強会があると、もっと知りたいことを知れるかと。逆にベテラン向けもあったらいいのかなと思います。他病院の日常業務も知りたいです。どんなことをしているのか、1日単位、1週間単位、1ヶ月単位など、学生向けに学校で聞いたことを改めて、いろんな病院からききたい。仕事はじめてから何をどうしてきたのかも知りたいです。
- ・2次会(飲み会)の解散時間は23時頃が良いです。次の日の講義の集中力低下、もったいないと思ってしまいました。
- ・内容もですが、熱意の方がより大きく考えさせられました。
- ・すてきな研修でしたので、来年度は参加人数が増加するとさらに討論が盛り上がると思いました
- ・5、6月から病棟を持ち始めましたが、食事を食べているのかか確認できておらず、入院患者さんの何を見てどう介入すべきなのか分からずにいました。(分からないことが分からない)今回参加して輸液、静脈栄養、経口、経腸栄養すべて栄養士が栄養管理行う上で大切であることを再確認できました
- ・管理栄養士として前向きに進みたいと思いました。日頃の業務に“考える事”をプラスしていきたい
- ・自分は一人じゃないと思えた。参加する時は自分にはハードルが高い話が多いかもと不安であったが、1年目だからこそ吸収できることがたくさんあったと感じた。栄養士の役割を再確認できました。気軽に参加できて良かったです。
- ・この場に来れないのは、惜しいことだと思います。